

＜学校教育目標＞自ら考え、主体的に判断し、行動する、心豊かで心身ともにたくましい子どもの育成

め の と

6月 水無月
教育週間 号

長崎市立女の都小学校 学校だより

令和3年6月18日 文責 校長：松田伊知郎

＜めざす児童像＞

① あてを立ててすすんで学ぶ子

② そみをもってたくましく生きる子

③ もだちとみがきあう思いやりのある子

想定外の早い入梅からの1か月の雨の間を縫うように、運動会、水泳指導といった体育的な活動が比較的順調に進んでいます。まさに、『女の都っ子』のパワーが、天候を味方につけているようでもあります。この他にも、「放課後子ども教室」の開講、「図書ボランティアの皆さんによる読み聞かせ」の開始（7月6日）に向けての準備など、制限を設け、用心しながらも、様々な方々にお世話になりながら子供たちを健全に育てる活動が始まっています。きっと「雨後の筍」のように、ぐんぐん伸びる子供たちの姿を見ることができでしょう。楽しみです。

～ 命の大切さを学ぶ教育週間 ～



別紙で「長崎っ子の心を見つめる」教育週間についてのお便りを配付しています。やり方や内容を変更・工夫しつつですが、今年度も様々な取組を進め、活発な教育活動を展開していきます。土曜授業もありますので、よろしくお願いします。

18年前の2003年7月1日、長崎市で中学生が4歳男児を誘拐し、殺害するという事件が起きました。翌年の2004年、更にその10年後の2014年にも、県内では殺人事件が起きました。恐ろしく感じたことはもちろんですが、被害者がそれぞれ小学生、高校生であったことと、罪を犯したのが小学生、高校生であったことは本当に驚きでした。そして、学校だけでなく地域や家庭でも、「子供達を『被害者』にも『加害者』にもしないような働きかけをしよう」という強い思いをもって、いろいろな取組が始まりました。学校において「教育週間」を作って「命」について考える機会をもつことや、道徳の授業で思いやりの心を育てることなどもそうです。このような取組の中で、大人は「子供一人一人の様子をよく見て、寄り添って、共に考えよう」と誓いました。

コロナ禍の昨今、子供も大人も、それぞれが自他の命を守るために頑張っています。長期化による疲弊を感じる今こそ、互いの頑張りを認め合い、更に支え合うコミュニケーションが必要です。教育週間をそんな機会にしましょう。『心』は密に！

～ 特別支援教育の充実 ～



「特別支援教育だより」6月11日号（No.2）では『発達障害』についてとり上げました。

最近の統計によると、発達障害は小・中学生に6.5%の割合で存在すると言われています。本校の児童数は139名ですから、 $139 \times 0.065 = 9.035$ ということになり、統計的には、全校で10名程度在籍していても、それ以上でも変ではありません。また、発達の仕方はその人の特性として千差万別です。そう考えると、発達障害は『「発達」の「障害」』と捉えるよりも、『「発達」の仕方が違うことによって、その人が何かをしようとしたときにしづらさを（「障害」と）感じる』と捉えたほうがよいでしょう。

本校では、全職員の共通認識・共通理解のもと、全職員で全児童に関わりながら、「笑顔」で生活や学習をする児童の姿を多く見ることができるようになりたいと考えています。学校からも気付きがあればお知らせしますが、御家庭でのお気付きや悩みがあれば学校にもお知らせください。学校と家庭とが同じ目線で指導していくことが、子供の悩みや困りごとを減らし、笑顔を増やします。

～ 新しい学びの姿について ～

教科等の目標や大まかな教育内容を定めている『学習指導要領』が改訂され、昨年度から全面実施になっています。10年毎に改訂される学習指導要領ですが、今回の改訂は「学校で学んだことが、子供たちの『生きる力』となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創りたい。」という思いが込められ、大きな見直しがなされています。その中で、新しい時代を生きる子供たちに必要な力を3つの柱として整理し、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を行い、子供たちの学びを後押ししています。

「知識及び技能」…実際の社会や生活で生きて働く力

「思考力、判断力、表現力」…未知の状況にも対応できる力

「学びに向かう人間性」…学んだことを人生や社会に生かそうとする力



単に「物事をよく知っている」「上手に発表した」「板書をきれいにノートに写している」ということではなく、「見通しをもって粘り強く学ぶ」「豊かな発想をもつ」「自らの学びを振り返り、次の学びに生かす」姿が現れる授業や行事が展開され、それを重視した評価になります。全教科・領域において、『主体的に学習に取り組み、これからの自分や自分を取り巻く社会の役にたつ学習になっているか』がポイントです。例えば、6年生の「総合的な学習の時間」においては、『長崎をベストな街にしようプロジェクト』に取り組み、その一環として「長崎の宝」を学ぶため、7月7日終日、校外学習に出ます。まさにバーチャルではなく、「本物」で学びながら『社会参画』の学習を進めています。

もちろん、発達段階に応じて求められる姿は違ってきます。しかし、学年は違って、これからの社会の担い手となる子供たちに、自分たちの手で創り上げていく輝く未来において活躍するそれぞれの姿を思い描いてほしいと願います。子供が、わくわくしながら、その姿へ向かって近づいていくための力を、家庭・学校・地域がチームとなって培っていきましょう。

☆☆☆ 日頃の子供たちの様子から… 気付きとお願い ☆☆☆



1学期の様子を見ていて、女の都小には笑顔がとても素敵な子供が多くいると感じます。しかし、衛生面や安全面、集団生活をする上で気になったこともあります。個人的には面談でもお伝えしますが、全体的なことや学校に連絡があったことをいくつか記します。家庭の中で同様のことがないか、また「持ち物が壊れている」「元気がない」「生活や学習のリズムが乱れている」「言動に粗暴さがみられる」などがないか、地域や保護者の目で確かめ、注意すべきはその場で指導をしてください（指導はタイムリーであるほど効果があります）。悩んでいるときや心が乱れているときのサインを、見逃さないようにしましょう。

☆ 日射病や熱中症対策として、登下校時と外での遊びや学習においては、帽子を着用させるようにしています。着用する帽子がなければ、体育用の赤白帽を着用しています。家を出るとき、家に帰ってきたとき、帽子をかぶっていますか。

☆ 雨が降っているとき、降りそうなときは、雨具を使用したり学校へ持っていったりしていますか。また、ラッパ傘（裏返し）にして遊んでいる子もいます。雨具が不自然に壊れていませんか。

☆ 車は死角があったり急に止まれなかったりするものです。歩道や路側帯を歩いていてもおしゃべりや遊びに夢中になって車道に出たり、帰宅後や休休日等に車道で遊んだりしていませんか。

☆ 今の帰宅時刻は18時です。これを過ぎて帰宅していませんか。

※ 時節柄、チャドクガ、ムカデなどの虫が出てきました。虫がつきやすい木に近付かない、靴を履く前に中を確かめるなど、具体的な行いを共有し、身を守りましょう。